



TITLE:

天文同好會報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天文同好會報. 天界 1930, 10(112): 299-300

ISSUE DATE:

1930-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161548>

RIGHT:

# 天文同好會報

## 創立滿十年

わが天文同好會が大正九年に創立されてから、今秋を以つて恰も滿十年に當る。此の期を以つて吾人は大に之を記念し、將來の發展を期したいものである。

同好會の十年史は、内外共に可なり多事多難であつた。中にも經濟的の困難に常になやまされ、又、近年社會の不景氣のため、會員の動搖絶えず、事務室は常に惡戰苦闘を續けた。此の間にあつて、さきには海老、小林兩氏の熱心あり。次いで竹内氏を迎え送り、現今は池田氏の献身的努力があつて、漸く今日まで難局に耐えて來た。

ところが、こゝに會員一同と共に大に喜ぶべきことは、最近わが同好會の會勢は、世間の不景氣風を一足御先きに通り過して、經營上のどん底を首尾よく切り抜けたことであつて、之れは「天界」の紙面や、其の他の表面にも著しく表はれて來てゐることを、鋭眼なる讀者たちは既に去六七月頃から氣付いてゐられるかと思ふ。かうして、めでたく更生の時機を迎えたことは、會員諸氏の多大なる同情協力によると共に前記、池田氏の絶大忠實なる献身努力に歸すべきものである。

本會は今秋の創立滿十年記念事業として、下記の如き種々の事を考慮中である。

## 會費の値下げ

本會が、世間のどん底不景氣時代に、なほ敢然として年五圓の會費を維持したことは、之れ全く會員諸氏の大なる後援によるものと思つて感謝に堪えない所であるが、しかし、今後、之れ以上に弘く同好の士を迎え、學問の普及を圖るがためには、むしろ此の際、斷然會費を引き下けて、年額

ほど參圓程度のものにしたい希望である。之れについては、内外一千の會員諸氏の満腹の賛成を得たい。と同時に此の機を以つて、大に新會員の入會を友人知人の間にすゝめられ、直接間接に本會を援けられんことを望む。新しい會費や其の他規則の改正については、今秋の總會までに大體の腹案を（多分「天界」九月號に）公表し、會員諸氏の豫じめ研究準備を待つて、總會の席上に之れを決定したいと思ふ。

---

### 會員總目錄の作製

---

創立以來十年間に本會へ參加した會員は夥しい數に上つてゐる。世間の不況時代この方、長く本會々員名簿を印刷しなかつたが、今日此の大事業を完成し、ひろく國內國外に同好のよしみを増すと共に、今後の發展のためにしたいと思ふ。それと共に創立以來の會員を表彰したいと思ふ。

---

### 滿十年記念總會

---

創立滿五年の記念總會は大正十四年の秋に大阪で開いた。こんどの滿十年總會を何所で開くべきかは、目下しきりに研究中である。會の發祥地である京都の地で開くべしといふ意見もあるし、又、東京で開くべしといふ議論もある。何れ之れは近いうちに決定、一日も早く會員諸氏に御知らせ申したい。總會中には、祝賀の意を満腹させて、懇親會や、講演會や、見學や、展覽會や、其の他いろんなことをやつて見たい。

---

### 會員消息

---

本會々長山本博士は講演のため、去る七月中旬、大垣、名古屋、濱松、静岡、沼津の各地へ出張せられた。八月中は、中村要氏等と共に、花山天文臺で研究觀測に没頭せられる豫定。

岡山の水野千里氏は、八月二日より、吳、廣島、三次、松山、善通寺、徳島、高知の各地を講演旅行せられ、同十五日歸郷の豫定。